

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

1年 生活デザイン科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

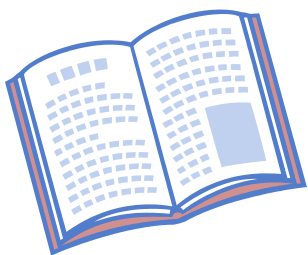
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

生活デザイン科

◎科の目標

- ・家庭の各分野に関する専門性の基礎・基本の知識と技術を学び、生活産業の社会的な意義や役割を理解し、社会の発展を図る創造的な能力と態度を身につけた人材の育成を目指します。
- ・「生活産業基礎」「フードデザイン」「服飾文化」「保育基礎」「生活産業情報」「さぬきの生活伝承」「課題研究」等を学習します。
- ・2年次よりコースを選択し、「健康栄養コース」「服飾デザインコース」「保育子ども文化コース」の3コースに分かれて学習します。

◎資格取得、進路

- ・家庭科技術検定（食物・被服・保育）、秘書技能検定、ビジネス文書実務検定
・大学、短大、専門学校への進学、各種企業への就職

①健康栄養コース

◎「調理」「フードデザイン」「栄養」「食品」など食物に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代 の 国語	言語 文化	公共	数学 Ⅰ	科学 と 人間 生活		体育	保健	芸術Ⅰ	英語コ ミュニ ケーションⅠ	家庭総合			生活 産業 基礎	服飾文化		フード デザ イン	L H R												
2年	文学 国語	地理 総合	数学Ⅰ	体育	保健	芸術Ⅰ		英語コ ミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅰ	生活 産業 情報	保育 基礎	服飾 文化	フードデザ イン		調理	さめぎ の生 活伝 承	L H R													
3年	文学 国語	歴史 総合	政治 経済	数学A	化学 基礎 生物 基礎		体育		英語コ ミュニ ケーションⅡ	課題研究			調理		栄養	食品	食文化 生活教養 和	L H R												

②服飾デザインコース

◎「ファッションデザイン」「ファッション造形」「服飾手芸」など
被服に関する専門的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語	言語文化	公共	数学Ⅰ	科学と人間生活		体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	家庭総合			生活産業基礎	服飾文化	フードデザイン	L	H	R											
2年	文学国語	地理総合	数学Ⅰ	体育	保健		芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅰ	生活産業情報	保育基礎	ファッション造形基礎			ファッションデザイン	フードデザイン	さめぎの生活伝承	L	H	R										
3年	文学国語	歴史総合	政治経済	数学A	化学基礎 生物基礎		体育	英語コミュニケーションⅡ	課題研究			ファッション造形			服飾手芸	食文化 生活教養 和	L	H	R											

③保育子ども文化コース

◎「器楽演奏」「保育実践」「服飾文化」「フードデザイン」など
保育に関する基礎的な知識・技術を学習します。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代 の 国語	言語 文化	公共	数学 Ⅰ	科学 と 人間 生活	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コ ミュニ ケーションⅠ	家庭総合			生活 産業 基礎	服飾文化	フード デザ イン	L	H	R												
2年	文学 国語	地理 総合	数学Ⅰ	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コ ミュニ ケーションⅡ	論理・ 表現Ⅰ	生活 産業 情報	保育 基礎	保育実践			服飾文化	フード デザ イン	さめぬ きの生 活伝承	L	H	R											
3年	文学 国語	歴史 総合	政治 経済	数学A	化学基 礎 生物基 礎	体育	英語コ ミュニ ケーションⅡ	課題研究			保育実践			フード デザ イン	食文化 生活教養 和	器楽 演奏	L	H	R											

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの80%以上理解できる。	○他者を意識して話す、聞く、書く、読むことができる。 ○他の考えと自分の考えを比較できる。 ○他の考えと自分の考えを比較した文章が書ける。	○自ら、言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという強い意欲がある。 ○将来・人生・生活などに学んだ内容を結び付けて考えようという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをまとめられる。他者の考えを理解できる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうという意欲がある。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方など、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。	○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。 ○他者の考えをある程度まとめたり、理解したりできる。	○言葉（話す・書く）を使って他者に関わろうとしている。 ○言葉の特徴や使い方、情報の扱い方などを、理解しようとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「現代の国語」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●「考える」ことの重要性を学ぶ 1、明日をひらく ●自分の考えを的確に伝える（話す・聞く）（書く）（伝わるように話す・わかりやすく書く） 3、的確に伝える 4、意見を示す
2 学期	●情報を的確にとらえる（読む） 2、要点をつかむ 5、論理をとらえる 9、情報を比較する 11、主張を吟味する ●情報に対する意見を伝える（書く）（話す・聞く） 6、魅力的に伝える 7、資料を駆使する
3 学期	●他者を意識して考え、また、他者を意識して自分の考えを伝える（書く）（話す・聞く）（読む） 8.他者と交流する 10.他者を動かす 12.考えを発信する

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自ら題材を決め、他者を意識して表現することができる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上(80%未満)理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上(65%未満)理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く)	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。 ○言葉(話す・書く)を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「言語文化」（大修館書店）

副教材 「学習ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「古典文法クリアノート」（尚文出版） 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	●言語文化への視点を持つ 世界を見渡す窓（現代文） 等 ●考えを表す言葉の変遷を学ぶ 論語（漢文） 徒然草（古文） 随筆（現代文） 等
2 学期	●物語を表す言葉の変遷を学ぶ 故事成語（漢文） 物語（古文） 小説（現代文） 等
3 学期	●想いを表す言葉の変遷を学ぶ 漢詩（漢文） 和歌（古文） 短歌・俳句・詩（現代文） 等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・感想 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
観点別：A	公民的な知識・技能を活用して、現実社会の諸課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。		
ジャンプ 評価：5	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら深く理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から効果的に収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけて適切な方法でまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら深く考えることができる。 ○課題の解決に向けて深く議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを分かりやすく文章で表現することができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと関連付けて考えている。 ○常に創意工夫し、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ○主権者としての自覚をもち、自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとしている。
観点別：A	公民的な知識・技能を踏まえて現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ステップ 評価：4	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけてまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら考えることができる。 ○課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを文章で表現することができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○主権者としての自覚をもち、自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で学び続けようとしている。
観点別：B	現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
ホップ	○倫理、政治、経済などに関わる基礎的な概念や理論を	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について	○基礎的・基本的な知識・技術や考察力を身につけようと

理解している。 ○諸資料から、情報を収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報をまとめることができる。	考えることができる。 ○教師の助力があれば、課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマに対する自分の考えを文章で表現することができる。	している。 ○学習内容をさらに理解するために学び方を改善しようとする。 ○教師の助力があれば進路実現に向け、学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的で、提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。
---	---	--

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新公共」 第一学習社

副教材 「最新公共資料集 2022」 第一学習社 ， 「新公共ノート」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理
2 学期	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 第2章 政治的な主体となる私たち
3 学期	第3章 経済的な主体となる私たち 第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 地球環境問題 生命倫理 国際社会の課題 資源・エネルギー問題 情報化社会

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切に毎時間の内容を理解できるよう努力するとともに、ただ黒板を写すだけではなく、工夫をして自分なりのノートをつくる。
- ・授業中に疑問に思ったことは質問したり、自分で資料集・参考書やインターネット等を使って調べたりしてさらに理解を深める。
- ・グループ活動に積極的に参加し、他者と協力しながら課題を解決する姿勢を身に着ける。
- ・授業を通して理解したことやできるようになったことを振り返る習慣をつける。
- ・普段から新聞・テレビ等のニュースを見るようにして、授業で学習したことを踏まえて、社会で起きている出来事について考察したり、自分の考えをまとめたりする習慣をつける。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、二次関数についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○公式・法則、用語などを理解し、導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。	○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。	○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。
ステップ	○基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。	○おおよその数理的に考察する力を付けている。数を拡張することに興味を持つ等。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。	○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。 ○提出課題等、計画的に行っている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようとする。



ホ ッ プ

○数学用語・公式を理解し、教師の説明を受けたり、例題を参考にしたりしながら練習問題に取り組む。

○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。
○社会生活において、数学が役割を果たしていることへの興味関心を高める。

○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。
○課題等、やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「数学Ⅰ Essence」 （東京書籍）

副教材 「ニュージャスト数学Ⅰ」 （東京書籍）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学 期	1 章 数と式 1 節 式の計算 2 節 実数
2 学 期	3 節 1 次不等式 2 章 集合と論証 1 節 集合 2 節 命題と論証
3 学 期	3 章 2 次関数 1 節 2 次関数とそのグラフ

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 予習として、教科書を読み、疑問点をチェックしておく。（なぜ？なに？を大切に）
- 積極的な態度で授業に臨み、授業で何がわかったかできるようになったかを復習するため、問題集を解く習慣をつける。（反復練習）
- 板書を写し取るだけでなく、自分が考えるときのポイントや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫してノートを取る。
- 疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- 教科書や問題集の基本問題を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。（復習）

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・小テスト ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・学習活動への取り組み ・長期休業中の課題
重みづけ	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、自ら問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。 〃
	ステップ	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて深く理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。 〃
		○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容を人間生活と関連付けて理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作	○身近な材料やヒトの生命現象、熱などの学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、問題を解決するための観察や実験方法を考え、見通しをも

ホ ッ プ	などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	って実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。
-------------	----------------------------	---	--

何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 科学と人間生活」 第一学習社

副教材 「新課程版 ネオパルノート 科学と人間生活」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学 期	序 章 科学技術の発展 第Ⅰ章 物質の科学 ・材料とその利用 または ・衣料と食品 第Ⅱ章 生命の科学 ・人の生命現象 または ・微生物とその利用
2 学 期	第Ⅱ章 生命の科学（続き） ・人の生命現象 または ・微生物とその利用 第Ⅲ章 熱や光の科学 ・熱の性質とその利用 または ・光の性質とその利用
3 学 期	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 ・自然景観と自然災害 または ・太陽と地球

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切にして積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目 標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
	ステップ ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を含めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。	○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。
	ホップ ○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。 ○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。	○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。 ○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・体づくり運動 - 選択① 器械運動・ダンス - 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道
2 学期	・体づくり運動 ・体育理論 - 選択③ 器械運動・ダンス - 選択④ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走
3 学期	・体づくり運動 ・持久走 - 選択⑤ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト	・振り返りシート	・振り返りシート、感想
重みづけ	2	1	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目 標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 シャンプ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけ、実践することができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分の考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組むことができる。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組むことができる。
 ステップ	○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることが理解できる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることが理解できる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけることができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を最小限の助言によって思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、自分なりの考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホ
ッ
プ

○現代社会における健康課題への対策や健康の保持増進については、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを教師の解説や助言により理解することができる。 ○安全な社会生活を送るためには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを教師の解説や助言により理解することができる。また、応急手当は速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を教師の解説や助言により身につけることができる。	○現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を教師等の個別な解説や助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、教師等の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○現代社会と健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。 ○安全な社会生活についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。
---	--	---

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）
副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学 期	第一章 現代社会と健康	
	① 日本における健康問題の変遷 ② 健康の考え方と成り立ち ③ ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ④ 健康に関する意思決定・行動選択	⑤ 現代における感染症の問題 ⑥ 感染症の予防 ⑦ 性感染症・エイズとその予防 ⑧ 生活習慣病の予防と回復
	第二章 安全な社会生活	
2 学 期	第一章 現代社会と健康	
	⑨ 身体活動・運動と健康 ⑩ 食事と健康 ⑪ 休養・睡眠と健康 ⑫ がんの予防と回復 ⑬ 喫煙と健康	⑭ 飲酒と健康 ⑮ 薬物乱用と健康 ⑯ 精神疾患の特徴 ⑰ 精神疾患への対応
	第二章 安全な社会生活	
3 学 期	第二章 安全な社会生活	
	① 事故の現状と発生要因 ② 交通事故防止の取り組み ③ 安全な社会の形成	④ 応急手当の意義と救急医療体制 ⑤ 心肺蘇生法 ⑥ 日常的な応急手当

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ノート ・定期考査	・授業における発表や成果物 ・ノート ・定期考査	・振り返りシート、感想 ・ノート ・定期考査
重みづけ	2 1 1		
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

教科 芸術

科目 音楽Ⅰ

対象 各科 1年生 選択者

単位 2

主な授業形態 座学・実技

目 標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。	○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようとなろうとする。
	ステップ	○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。	○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
	ホップ	○ト音譜表、ヘ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。	○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA1」（教育芸術社）

副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	歌を歌おう ・校歌及び簡単な独唱、合唱曲を歌う。可能ならグループ学習へ移行。 楽器にふれよう ・鍵盤楽器や簡易な打楽器を演奏する。可能ならグループ学習へ移行。 指揮してみよう ・平易な曲を使用し、基本的な図形を振る。フェルマータを振る。 様々な楽器の音色に親しもう ・鑑賞をすることにより、管楽器や弦楽器の音色に親しむ。楽器の特性を知る。
2学期	一人で演奏しよう ・夏休みの課題を発表する。 表現を工夫してギターのリズムをしよう。 ・「シチリアーナ」の2～3重奏をする。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 総合芸術や楽器編成について知ろう ・歌劇や2～4管編成の管弦楽曲等を鑑賞することにより、スコアリーディングをする。
3学期	フランスの作曲家について生涯と作品をたどろう ・ドビュッシーやラヴェル等の生涯をたどりながら、作品の特徴を理解し魅力を味わう。 創作を含めた様々なアンサンブルに取り組もう ・ハンドクラップや合唱奏をグループで取り組む。各グループに応じたアレンジを行う。 ギター以外の弦楽器にふれる ・ヴァイオリンの開放弦を弾き、ボーイングのアップとダウンの違いを知る。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート ・レポート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2	2	1
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて深く考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。	○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
	ステップ	○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を深め、意図や目的について考えることができる。	○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ	○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見することができる。 ○学んだ知識や技法を生かして作品を完成させることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高校生の美術1」（日本文教出版）

準備物 中学で使った絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	・ 絵画 1（よく見て描く） 目の前のモチーフをよく観察し、鉛筆デッサンを描きます。 ・ 絵画 2（絵の具で描く） 絵の具を使って絵画を制作します。
2 学期	・ デザイン、立体造形 テーマに沿ってデザインを考え、立体で制作します。
3 学期	・ アニメーション コマ撮りアニメーションを制作します。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切にして、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 作品 ・ アイディアスケッチ	・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート	・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

教 科	芸術	科 目	書道 I	対 象	各科
単 位	2	主な授業形態	実技		

目 標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。（知識及び技能）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○作品や書のよさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
	ステップ	○作品や書のよさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。	○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
	ホップ	○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。	○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅰ」（教育出版）

準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	【漢字の書】楷書の学習 「九成宮醴泉銘」、「孔子廟堂碑」、「雁塔聖教序」、「顔氏家廟碑」の臨書 ・書風の違いを味わい、用筆・運筆法を身につける。 楷書の作品を創作しよう ・学んだ古典の特徴を生かし、創作する。
2 学期	【漢字の書】行書の学習 「蘭亭序」、「風信帖」の臨書 ・行書の特徴を知り、基本的用筆法を身につける。 ・書風の違いを味わい、表現する。 【篆刻】 自刻印を制作しよう ・篆書体の特徴を理解し、草稿をつくる。 ・印刀などの用具を正しく使い、印を彫る。
3 学期	【仮名の書】 「蓬萊切」「高野切第3種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を学び、平仮名、変体仮名を書く。 ・連綿の特徴を学び、連綿のある語句を書く。 ・古筆の良さを味わいながら臨書する。 【漢字仮名交じりの書】 オリジナルカレンダーの制作 ・これまでの学習で学んだことを生かし、個性を生かした表現で創作する。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・実技教科なので、作品は必ず仕上げ提出する。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・作品 ・ワークシート	・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート	・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ○教科書で扱われる英単語や文法事項について理解を深めている。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ステップ ○教科書で扱われる英単語や文法事項を理解している。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、活用できる技能を身に付けている。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	○外国語の背景にある文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
	ホップ ○教科書で扱われる英単語や文法事項について教師等の助力があればおおむね理解できる。 ○教科書で扱われる英単語や文法事項等の知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、教師等の助力があればおおむね活用できる。	○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを教師等の助力があればおおむね理解したり、伝えたりすることができる。	○外国語の背景にある文化に興味を持ち、英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「All Aboard! English Communication I」 東京書籍
 副教材 「All Aboard! English Communication I ワークブック」 東京書籍
 「ビッグ・ディッパー高校英語」 数研出版
 「クラウン チャンクで英単語 Basic」 三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容
1 学期	Lesson 1 Breakfast around the world 私の朝ごはん ・動詞の過去形 ・好きな食べ物について紹介する Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物 ・進行形 <be 動詞+動詞の-ing 形> ・好きな動物について紹介する Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車 ・助動詞：can, will ・ある場所への行き方とそこでできることについて紹介する Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景 ・to 不定詞<to+動詞の原形> ・行ってみたい場所について述べる
2 学期	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部 ・動名詞<動詞の-ing 形> ・将来の夢について紹介する Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師 ・受け身<be 動詞+過去分詞> ・好きな絵について紹介する Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク ・比較表現<-er><the -est><as+原級+as> ・関心のある人物について説明する Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ ・現在完了形<have[has]+過去分詞> ・人の生活を豊かにする味のアイデアを提案する
3 学期	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る ・名詞を後ろから説明する分詞 ・環境を守るためにできることについて英語で述べる Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物 ・関係代名詞：who, which ・海外の文化や社会に対する理解を深める活動について述べる

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようにになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目 標

生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協議し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけるようにする。(知識及び技能)
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 様々な人々と協議し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○生活課題に対して、具体的に何ができるか考え、課題解決に向けて行動することができる。 ○実習やグループワークでは、自分の意見を分かりやすく述べ、相手の立場も考慮したうえで論理的にまとめて表現することができる。	○多様な意見や価値観を取り入れ、自ら豊かな生活を創ろうとすることができる。 ○将来の家庭生活や職業生活を見通して、必要な情報を収集・整理し、学習に取り組むことができる。 ○社会の一員として、積極的に家庭や地域での生活を楽しんでいる。
	ステップ	○生活課題に対して、具体的に何ができるか考え、教師等の助言で課題解決に向けて行動することができる。 ○実習やグループワークでは、自分の言葉で意見を述べ、相手の意見も参考に、まとめて表現することができる。	○多様な意見や価値観に気づき、自らの豊かな生活に取り入れようとするすることができる。 ○将来の生活と学んでいることを結び付けながら、学習に取り組むことができる。 ○社会の一員として、家庭や地域での生活を楽しんでいる。
	ホップ	○生活課題に対して、教師等の助言をもとに何ができるか考え、解決に向けて行動しようとするすることができる。 ○実習やグループワークでは、自分の言葉で意見を述べ、相手の意見を聞いたうえで自分なりの考えを持つことができる。	○自分の生活に関心を持ち、豊かな生活を創ろうとすることができる。 ○学習を通して、将来の生活を想像し、考えようとすることができる。 ○課題等、やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「家庭総合」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容		
1 学期	【 家族・衣生活・住生活・消費経済分野 】 これからの人生について考えてみよう ・ これからの人生をデザインする 自分らしい生き方と家族 ・ ライフキャリア ・ 共に生きる家族 等 衣生活をつくる ・ 衣服の素材の種類と特徴 ・ 衣服実習 等	【 食生活・子ども・高齢者・社会分野 】 食生活をつくる ・ 私たちの食生活 ・ 栄養と食品のかかわり ・ 食事の計画と調理 等 生活課題を発見し、解決しよう ・ よりよい生活をめざすための課題解決 ・ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
2 学期	衣生活をつくる ・ 衣服の選択から管理まで ・ 衣服をつくろう 等 住生活をつくる ・ 健康に配慮した快適な室内環境 ・ 安全な住まい 等	食生活をつくる ・ 食品の選び方と安全 ・ 食事の計画と調理 等 子どもとかかわる ・ 子どもの発達 ・ 子どもをはぐくむ ・ 保育実習 等
3 学期	消費行動を考える ・ 消費生活の現状と課題 ・ ライフスタイルと環境 等 経済的に自立する ・ 暮らしと経済 ・ 将来のライフプランニング 等	高齢者とかかわる ・ 高齢者を知る ・ 高齢社会を支えるしくみ 等 社会とかかわる ・ 支えあって生きる ・ 共生社会を生きる

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・自分の課題や、できるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、生活を営む上で必要な基礎的知識や技術の習得を目指す。
- ・実習やグループワークでは、自分の考えを表現し、他者とのコミュニケーションを通して学習を振り返り、技術やコミュニケーション能力を高める。
- ・提出物は丁寧に仕上げて、期限を守って提出する。
- ・自分の生活を充実向上させるため、学習したことを生活の場に積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト ・ 定期考査 ・ 実習で製作した作品	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ 長期休業中の課題	・ 授業における発表や成果物 ・ グループワークの様子 ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 生活産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指して自ら学び、生活産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○周りの人々と協働し、生活産業の振興や社会貢献に取り組む姿勢を身につける。 ○職業への関心を高め、専門性の向上を目指し、自ら考え、取り組むことができる。
	ステップ	○提示された例を参考に、生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。	○職業への関心を高め、専門性の向上を目指し、自ら考え、取り組もうとする。 ○課題等やるべきことを、期限までに自分でする。
	ホップ	○提示された例を参考に、生活産業や関連する職業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として、教師等による解説や助力を頼りに解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやり切ろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生活産業基礎」 実教出版
 副教材 「秘書実務（高等学校用教科書）」 早稲田教育出版
 副教材 「秘書検定実問題集 2023 年度版」 早稲田教育出版
 学習プリント 等

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 生活と産業 2 商品とサービスの提供 3 生活産業と職業 ・食生活関連分野 ・衣生活関連分野 ・住生活関連分野 ・ヒューマンサービス関連分野
2 学期	秘書検定対策
3 学期	4 職業生活と自己実現 職業生活が自己実現につながることを認識し、専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てる。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・作品製作やレポートには計画的に取り組み、期限内に必ず提出する。
- ・産業現場等の実態を調べたり、関係する職業に携わる卒業生や親から話を聞いたりすることで、生活産業への関心を高める。
- ・秘書技能検定受験を通して社会人としての常識・マナーを身につけ、自ら考え行動する姿勢を身につける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・実習態度 ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、服飾文化の伝承と創造を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。(知識及び技術)
- (2) 服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○服飾の変遷と文化、着装などについて体系的・系統的に理解する。 ○服飾文化に関連する技術が身に付き、日常生活の中で適切に活かせる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、丁寧に正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題を発見し、服飾文化の伝統と創造を担う職業人として合理的かつ創造的に解決できるよう、考え、工夫している。 ○製作実習において、学習した内容を理解し、作業したうえで正確に周囲にアドバイスできる。	○豊かな衣生活の実現を目指して自ら学び、服飾文化の伝承と創造に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
ステップ	○服飾の変遷や文化、着装などについて、基礎的なものを理解している。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、正確に課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を参考にして解決策を考え、工夫している。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により正しく周囲に伝えることができる。	○課題等やるべきことを、期限までに、正確に仕上げる。 ○和服の基本となる女物ひとえ長着（浴衣）についての知識や技術を身に付け、正確に作品を仕上げようと取り組んでいる。
ホップ	○服飾の変遷や文化、着装について基礎的なものを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○服飾に関連する技術を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。 ○服飾に関する基礎的な技術を身に付け、課題作品を製作できる。	○服飾文化に関する課題について、教師等による解説や助力を頼りに解決策を考え、工夫できる。 ○製作実習において、理解できた内容を言葉や作業により表現できる。	○課題等やるべきことを、教師等による指導や支援を得ることで、期限までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点を知り、努力できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「服飾文化」 （教育図書）
 副教材 「家庭科問題集 基礎編」 （全国高等学校家庭科教育振興会）
 「家庭科問題集 被服編」 （全国高等学校家庭科教育振興会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	「服飾文化」を学ぶ目的と意義 ・服飾文化を学ぶ ・衣服の起源 ・衣服の基本形 被服製作 ・基礎縫い ・パンツ製作
2 学期	被服の変遷と文化 ・和服（女物ひとえ長着）の製作
3 学期	・和服（女物ひとえ長着）の製作 ・和服の手入れと保管

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・服飾に関心を持ち、服飾の変遷や文化、着装などについて理解し、実生活で取り入れるようにする。
- ・被服に関する基礎的な技術を身に付け、日常生活で活かせるようにする。
- ・作品は正確に仕上げて、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・提出作品 ・定期考査	・定期考査 ・授業における発言や作品 ・レポート ・長期休業中の課題	・製作時の取り組み、進捗 ・振り返りシート、感想 ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目 標

家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける（知識及び技術）
- (2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	○食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する方法を構想し、実践に移すことができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○実習に清潔な服装で衛生面に気をつけて参加し、主体的かつ協働的に調理に取り組むとともに、調理技術の向上のために、自ら努力することができる ○与えられた課題をやり切るとともに、自主的に食生活の充実向上を目指して学ぶことができる。 ○習得した知識や技術を地域や家庭で積極的に活用することができる。
	ステップ	○自分の食生活と健康についての関連だけでなく、食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上のために、解決策を構想することができる。 ○上記の学習活動について、根拠に基づいて表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気を付けて参加し、主体的に調理に取り組むことができる。 ○与えられた課題を、主体的に期限までにやりきることができる。
	ホップ	○教師等の助言を頼りに、自分の食生活の課題を発見し、健康的な食事について考えることができる。 ○上記の学習活動について、考えたことを表現することができる。	○実習に清潔な服装で、衛生面に気をつけて参加することができる。 ○与えられた課題を、教師等による助言をたよりに、期限までやりきろうと努力することができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「フードデザイン」（実教出版）

「新家庭総合」（実教出版）

副教材 「オールガイド食品成分表」（実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 第4章 調理の基本 ・1節 調理とおいしさ ・2節 調理操作（切り方 計量）
2 学期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 ・1節 日常食の献立を作成する際の留意点 ・2節 日常食の献立作成 第6章 フードデザイン実習 ・日常食の献立と調理実習
3 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 ・1節 食品の特徴と性質 第6章 フードデザイン実習 ・日常食の献立と調理実習

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・栄養・食品・献立・調理・テーブルコーディネート等の知識については、授業に主体的に取り組み、理解するよう努める。学んだ内容は実生活と関連付けて、生活の中で活用する。
- ・日常生活において、自らの食生活が自分の健康だけでなく社会的な課題（フードロス、環境問題など）とかかわっていることを意識する。
- ・提出物は、期限内に必ず提出する。
- ・実習については、指定の服装で参加し、積極的に調理に取り組む。（やむを得ない理由で参加できない場合は、レポートを提出し、身につける内容について補う努力をする）

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・長期休業中の課題	・実習への取り組み ・提出物 （プリント、調理ノート等） ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	4	3	3
	実技の授業が多く、食生活に関する知識の習得とともに、技術の習得に重きを置いた科目です。 3 観点をバランスよく身に付けるとともに、「知識・技能」の観点をやや重めに評価し、成績をつけます。		

1 年 組 番	氏名
---------	----